

長井市小中学校
将来構想検討委員会
提言書
及び
検討の経過

令和5年3月
長井市小中学校将来構想検討委員会

長井市小中学校
将来構想検討委員会
提言書

長井市小中学校将来構想検討委員会 提言書

— 目 次 —

はじめに.....	1
1. 現状.....	2
(1) 長井の子供を取り巻く社会	2
(2) 児童生徒数の推移	3
(3) 学校施設の状況.....	4
2. 課題.....	5
(1) 現状を踏まえた課題	5
(2) これからの学校をどうするか	5
3. 検討.....	6
(1) 本構想の位置づけ	6
(2) 『長井市小中学校将来構想検討委員会』について.....	7
(3) 検討委員、アドバイザー、講師等.....	8
(4) 用いた思考手法.....	9
(5) 検討プロセス	10
(6) 第1回～第5回プロセス詳細	11
4. これからの学びと学校の在り方.....	12
(1) 捉えるべき視点.....	12
①子供の学びのあり方	12
②学校のあり方.....	13
(2) 目指す将来像と取組	14
①目指す理想の姿.....	14
②理想の実現のために	15
(3) これからの学校施設整備.....	17
①小学校は地域の核	17
②取組の方向性に沿った学校施設整備	17

はじめに

学校は、子供、保護者、教員、地域の方々が心をつにし、未来を切り拓く子供達を育てていく共同体です。子供達が小学校や中学校を卒業するまでに、どのような姿へ成長して欲しいか、そのために学校という学びの場がどうあればいいのかを共有し、子供のより良い成長を支える体制を整える必要があります。

このたび、その体制づくりに向けて、長井市内で様々な立場で活躍されている方を委員とした長井市小中学校将来構想検討委員会を組織し、学校の将来の在り方を話し合っていました。

本検討委員会の目的は、子供達を真ん中に据え、それぞれの立場を超えて、願いや想いを伝え合いながら、長井市の目指す学校や地域の姿を明らかにしていくことです。加えて、長井市における学校や地域の新しい価値を創るきっかけとなることです。

アイディアはいくつもあり、どれが長井市にとって最善なのかという答えは、現時点ではありませんが、本提言書の最も特徴的なことは、委員の多様な意見や言葉を基にまとめ上げた提言であるという点です。本提言が、今後の長井市の教育施策を検討していく際の拠り所となれば幸いです。

本検討委員会の開催にあたり、第1回会議で基調講話をお引き受けいただき、会議各回においても適切な助言、時に熱い励ましのお言葉をいただきました山形大学教職大学院教授の江間史明先生に深く感謝申し上げます。

また、長井市学校教育アドバイザーである文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長の廣田貢先生には、第4回会議でファシリテーターをお引き受けいただき、幅広い見識と多くの「対話・熟議」の経験に基づいたご指導を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

そして、まっさらな空に雲を描くように、子供達、学校、地域の未来について、「想い」を込めて多くのご意見をいただいた本検討委員会の委員の皆様に、深く感謝申し上げます。

長井市小中学校将来構想検討委員会 委員長 迎 田 浩 昭

1. 現状

(1) 長井の子供を取り巻く社会

現代社会はグローバル化が進み、その変化のスピードが著しいだけでなく、様々なことが複雑に絡み合った社会となっています。世界のとある国の出来事による影響が他の国々にも伝播し、その影響は社会経済の面で市民生活にも及びます。これは長井市のような地方都市でも避けることは出来ません。

グローバル化は外部から影響を受けるだけでなく、世界と積極的に関わっていくチャンスにもなりました。長井市の子供達は、各学校にいる ALT と英語を使って日常的に触れ合い、個人に貸与された GIGA スクール端末を使って授業を受けたり探究活動をしています。特にコミュニケーション分野はここ数年で大きく進化し、これまで繋がるのが難しかった人との繋がりや、遠方の人との対話がオンラインで簡単にできるようになりました。長井市の子供達も、各学校でのマンツーマン英会話授業や、感染症の疑いで出席停止となった際に自宅で授業が受けられる等の恩恵を受けています。

一方、対面による人との触れ合いと、地域に根付いた文化は、グローバル化が進んだ今もほとんど変わっていません。家庭では家族と、学校では子供と先生、そして子供同士の触れ合いがあります。また、長井市の子供達は学校の内外で地域の方との関わりもあります。例えば学校の地域学習で地域の歴史や社会の仕組みを教えてくれる地域の方や、コミュニティセンター、子供会、伝統文化行事などで子供達と関わってくれる地域の方などが沢山います。子供達が健全に成長していく上で欠かせない人との関わりは普遍的に続いています。



【写真】 GIGA スクール端末を使用した授業



【写真】 ALT とのレクリエーション



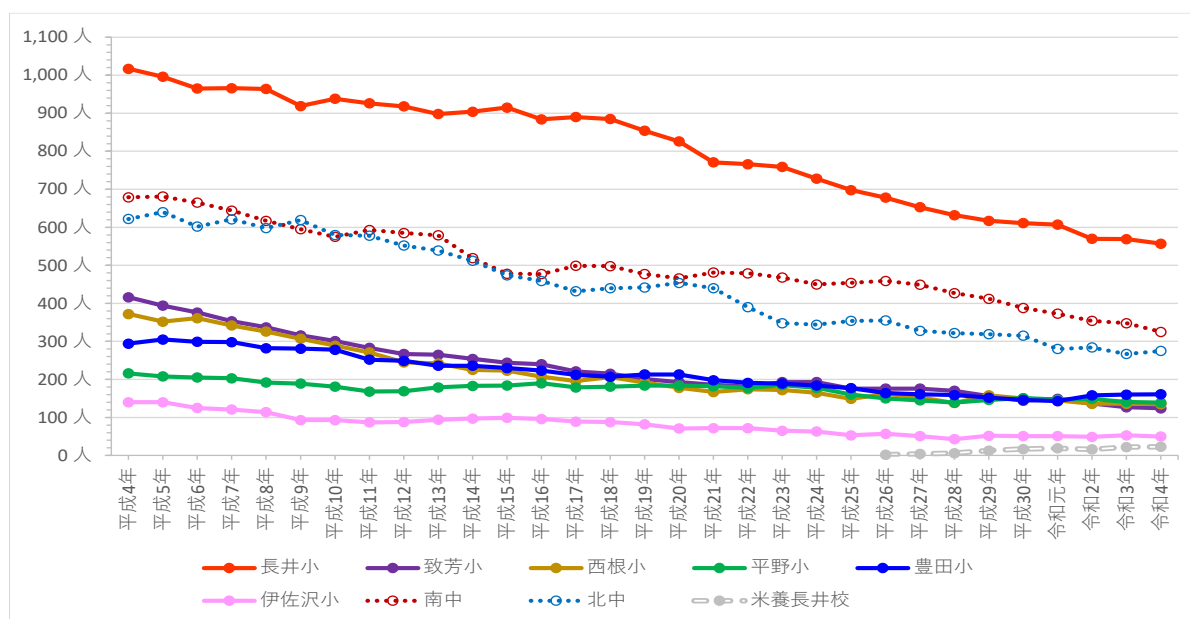
【写真】 学校で継承している地域の伝統芸能



【写真】 地域の方を講師に迎えた特別授業

(2) 児童生徒数の推移

本市には、小学校6校と中学校2校があります。令和4年度の本市の児童生徒数の合計は1766名で、30年前の3756名からおよそ半減しており、今後も緩やかな減少が見込まれます。



【図】市内小中学校の児童生徒数

【表】各学校の児童生徒数（※特別支援児童生徒を含む 出典：長井市教育委員会資料）

	長井小	致芳小	西根小	平野小	豊田小	伊佐沢小	南中	北中	児童生徒合計	参考米養長井校
平成4年度	1017	416	372	216	294	140	679	622	3756	
平成5年度	996	394	352	208	305	140	681	640	3716	
平成6年度	965	376	361	205	299	125	665	602	3598	
平成7年度	966	353	342	203	298	121	644	621	3548	
平成8年度	964	337	326	192	282	114	617	598	3430	
平成9年度	919	316	307	189	281	93	595	619	3319	
平成10年度	938	301	289	181	278	93	575	580	3235	
平成11年度	926	283	271	168	252	87	593	578	3158	
平成12年度	918	267	245	169	249	88	585	552	3073	
平成13年度	898	265	242	179	236	94	579	539	3032	
平成14年度	904	254	225	183	236	97	519	512	2930	
平成15年度	915	244	223	184	230	99	478	474	2847	
平成16年度	884	240	207	190	223	96	477	459	2776	
平成17年度	890	221	196	179	212	89	499	432	2718	
平成18年度	885	215	206	181	207	88	498	440	2720	
平成19年度	854	201	192	184	213	82	477	442	2645	
平成20年度	826	193	178	184	213	71	466	454	2585	
平成21年度	771	186	167	182	198	72	481	440	2497	
平成22年度	766	181	174	178	191	72	479	390	2431	
平成23年度	759	193	172	185	189	65	468	348	2379	
平成24年度	728	193	165	178	184	63	450	344	2305	
平成25年度	698	176	149	160	177	53	454	354	2221	
平成26年度	678	176	162	150	164	57	459	355	2201	2
平成27年度	653	176	153	145	161	51	449	328	2116	4
平成28年度	632	170	138	139	159	43	427	322	2030	6
平成29年度	617	156	158	146	152	52	412	319	2012	13
平成30年度	611	144	150	151	146	51	388	315	1956	17
令和元年度	607	149	145	147	143	51	373	280	1895	19
令和2年度	570	137	136	149	158	49	354	284	1837	16
令和3年度	569	127	136	141	160	53	348	267	1801	22
令和4年度	557	124	135	139	161	50	325	275	1766	23
30年間の減少率 【平成4年度比】	54.8%	29.8%	36.3%	64.4%	54.8%	35.7%	47.9%	44.2%	47.0%	-

(3) 学校施設の状況

令和３年３月に長井市および長井市教育委員会で策定した「長井市学校教育施設長寿命化計画」（以下、長寿命化計画）では、築年数、改修の履歴、劣化状況調査による健全度等を総合的に評価し、学校施設の改修等の優先順位付けを行いました。

長井南中と長井北中については令和４年度に改修工事を実施し、令和５年度も改修工事の追加を予定しています。長井南中と長井北中は建物の老朽化対策が一旦完了するため、これを踏まえた令和５年３月時点の改修等の優先順位を下記に示します。

【表】学校施設の改修等の優先順位（※令和5年3月時点。南中・北中は令和4・5年度改修工事により優先順位を格下げ。）

優先 順位		施設名	築年数	老朽化 対策 改修年	鉄筋の腐食 確率による 推定劣化度 【下段：改修済補正】	劣化状況 調査による 健全度	使用上の 不具合	備考
高 ↑ 低		伊佐沢小（体育館）	33	未	B	61	漏水	体育館
		伊佐沢小（校舎棟）	33	未	B	53、53		教室管理棟、多目的ホール棟
		致芳小（多目的ホール棟）	29	未	A	46	積雪時漏水	
		西根小（体育館）	46	H24	C 【A】	52、70	豪雨時漏水	体育館、体育館渡廊下
		長井小（第2校舎）	50、52、53	H13	C~D 【A~B】	45、45、49		機械室、西棟、東棟 ※改築の検討要
		長井小（第3校舎）	50、51	H22	C 【A】	52、58		東棟、西棟
		長井小（至第3校舎渡廊下）	50	未	C	29、29		中央・西渡廊下（至第3校舎）
		致芳小（校舎）	45	H23	C 【A】	68、68、70		教室棟、特別教室棟、管理棟
		致芳小（体育館）	43	H24	C 【A】	77、77		体育館、渡廊下
		西根小（校舎）	40	H26	B 【A】	80、82、87		教室棟、特別教室棟、管理棟
		平野小（校舎）	39	H28	B 【A】	84		教室管理棟
		平野小（体育館）	39	H29	B 【A】	78、85		体育館、渡廊下
		豊田小（校舎）	37、38	H26	B 【A】	80		教室管理棟
		豊田小（体育館）	37、38	H27	B 【A】	78、92		体育館、渡廊下
		長井小（体育館）	10	未	-	93、93		体育館、体育館渡廊下
		長井小（管理棟）	3	未	-	100、100		管理棟、渡廊下（至第2校舎）
		北中（教室管理棟）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		
		北中（体育館）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		体育館、渡廊下（至校舎管理棟）
		北中（特別教室棟）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		東・西渡廊下含む
		北中（柔剣道場）	40	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		渡廊下含む
	南中（管理棟）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		校舎、管理棟、体育館、柔剣道場	
	南中（教室棟）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		渡廊下（至管理棟）含む、増築部は無視	
	南中（体育館）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		体育館、体育館渡廊下	
	南中（技術室棟）	41	R4	B 【A】	R4 改修後未調査		渡廊下含む	
	南中（柔剣道場）	40	R4	B 【A】	R4 改修後未調査			

2. 課題

(1) 現状を踏まえた課題

人口減少と少子化が進んだ自治体や一部の地域では、学校施設の老朽化を踏まえ、学校の統廃合が行われている現状があります。長井市の場合、小中学校は現時点で統廃合すべき状況にはありませんが、今後も続くであろう人口減少と少子高齢化社会の中で、学校をどう維持していくかは重要な課題です。

また昨今、全国各地の公立学校で、学力の向上や地域に根差した人材育成などを目的とした小中一貫校、中高一貫校も増えつつあります。

これからの長井市の未来を作っていく子供達にとって、学び・人との触れ合いの主たる場は学校です。現状の社会情勢を踏まえながら、将来を担う子供達にはどのような学校がふさわしいのか、今までの形にとらわれず、これからの学校の在り方を考えていく必要があります。

(2) これからの学校をどうするか

長井市内の小中学校8校の改修はこれまで築年数等に応じて輪番的に行っており、今後も必要な状況です。先述の長寿命化計画には、改修や改築のサイクルが示されていますが、この計画の主眼は建物の健全性の維持と整備費の平準化であり、長寿命化計画には学校の在り方を考える視点はありません。

これからの学校をどうするかは、

- 将来を担う子供達にどのような力をつけさせなければならないのか
- そのためにはどのような学びや経験ができると良いのか
- それにはどんな人が関わってもらう必要があるのか
- それにはどんな場所・空間が必要なのか

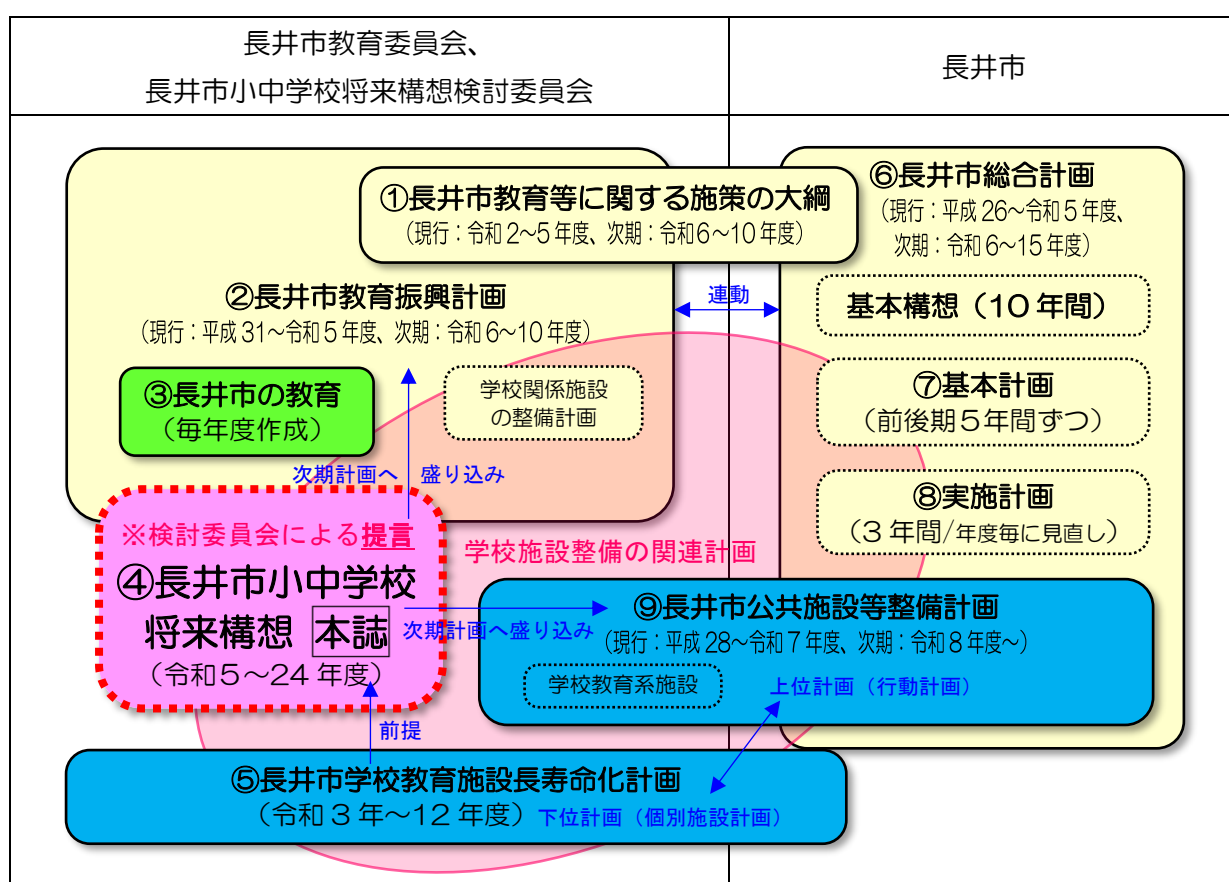
といった大局的なことを念頭におき、これからの学校の在り方として捉えるべき視点を踏まえ、将来の学校施設整備についても方向性を示していくことが課題となります。

3. 検討

(1) 本構想の位置づけ

本誌、長井市小中学校将来構想（下図④）は、今後およそ 20 年間（令和 5 年度～24 年度）に渡る 長井市立小中学校の学びや学校施設の理想の将来像を示す構想として、『長井市小中学校将来構想検討委員会』が提言するものです。

この将来構想は、令和 3 年 3 月に策定した長井市学校教育施設長寿命化計画（下図⑤）を踏まえ、「現実的課題である施設整備」と「夢ある教育・理想の教育」の両輪について、次期の長井市教育振興計画（下図②）の下地としての役割を担うほか、長井市の教育および施設整備に関する計画にも中長期的な影響を与える構想として位置付けられます。



【補足】…令和 5 年 3 月現在、長井市における教育関係の各種計画等は次の相関があります。

長井市および長井市教育委員会では、教育・文化・スポーツに関する理念として①長井市教育等に関する施策の大綱を定めています。また、長井市教育委員会で策定する総合的な中長期計画として②長井市教育振興計画があり、①②に沿って毎年度作成する短期計画が③長井市の教育です。

一方、長井市で策定する総合的な中長期計画としては⑥長井市第五次総合計画があり、前後期 5 年間ずつの⑦基本計画と、毎年度見直し以降 3 年間の計画となる⑧実施計画があります。⑥⑦⑧の計画のうち、教育に関する内容は①②③に連動します。また、①②③⑥⑦⑧には、学校施設整備に関する内容を一部含みます。

施設整備に特化した中長期的な計画は、長井市で策定した⑨長井市公共施設等整備計画が上位にあり、⑨は長井市が所有する全ての公共建築物とインフラの維持管理・更新に関する行動計画となっています。一方、長井市および長井市教育委員会で策定した⑤長井市学校教育施設長寿命化計画は⑨の下位計画として位置づけられる個別施設計画となります。

（２）『長井市小中学校将来構想検討委員会』について

①会議体の設置と目的

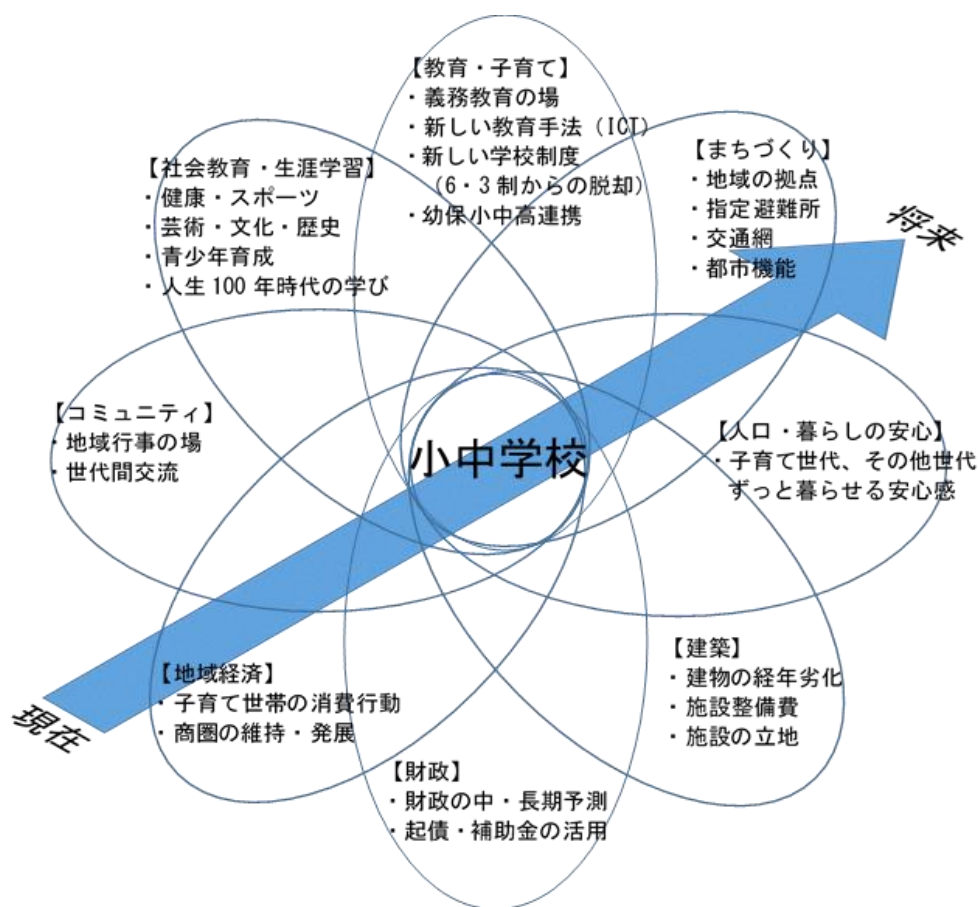
『長井市小中学校将来構想検討委員会』（以下、本検討委員会）は、長井市学校施設長寿命化計画（令和３年３月策定）を踏まえつつ、長井市にふさわしい教育の理想像を考えながら、長井市立小中学校８校の将来のあり方を検討することを目的とし、令和３年度～令和４年度の２か年間に設置し、令和３年度は２回、令和４年度は３回の会議を開催しました。

現実的課題である施設整備と、夢ある教育・理想の教育の両輪で、学校運営と学校施設がどうありたいかを、２０年後を見据えてじっくりと協議する場としました。

②多様な視点による協議

義務教育である小中学校は人生の中で誰もが教育を受ける場所であるだけでなく、まちづくりやコミュニティの核となる場所でもあるため、小中学校のあり方を検討する際には、下記のイメージのように多様な視点が必要と考えました。

本検討委員会は様々な立場の方、専門的な見識をもった方を委員に委嘱することで、各者の視点での意見・考え方を伺い、より多角的に、長井市にふさわしい小中学校のあり方を協議できるよう配慮しました。



【図】小中学校を取り巻く多様な視点のイメージ

(3) 検討委員、アドバイザー、講師等

【講師】

とき	講話テーマ	講師
第1回(R3.11.1)	学校統廃合と小中一貫校の動向と課題	江間 史明 先生
第2回(R4.3.30)	長井市のまちづくりについて	内容 重治 長井市長
第4回(R4.12.19)	(講師兼ファシリテーター) 学校・地域づくりで大切にしたい視点 ／乗り越えるべき課題と全国の挑戦	廣田 貢 先生

【アドバイザー】

(敬称略)

番号	氏名	属性・役職
1	廣田 貢	【長井市学校教育アドバイザー】 文部科学省大臣官房 文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長

【検討委員】※番号に○のついている委員は、充て職委員で令和4年度からの後任者

(敬称略)

番号	氏名	属性・役職	区分
1	江間 史明	山形大学教職大学院 教授 【本検討委員会副委員長】	5号委員 【学識経験者】
2	大津 君彦	長井市社会教育委員/育みネット長井会長/子育連副会長	
3	鈴木 英明	本町商店街 理事長	
4	梅津 洋	長井小学校 校長 (小学校校長会会長) ※令和3年度	1号委員 【教育関係者】
④	竹田 啓	長井小学校 校長 (小学校校長会会長) ※令和4年度	
5	衣袋 慶三	長井南中学校 校長※令和3年度	
⑤	赤間 幸生	長井南中学校 校長※令和4年度	
6	迎田 浩昭	長井北中学校 校長 (校長会会長) 【本検討委員会委員長】	2号委員 【PTA関係者】
7	小関 洋	長井市PTA連合会 会長 (平野小学校PTA会長) ※令和3年度	
⑦	菅野 弥則	長井市PTA連合会 会長 (西根小学校PTA会長)	
8	横山 昌則	長井南中学校PTA会長※令和3年度	
⑧	平 浩一郎	長井南中学校PTA会長※令和4年度	
9	深澤 賢一	長井北中学校PTA会長※令和3年度	
⑨	小野 卓也	長井北中学校PTA会長※令和4年度	
10	本石 容子	長井市PTA連合会母親委員会委員長 (平野小) ※令和3年度	
⑩	高橋 美香	長井市PTA連合会母親委員会委員長 (西根小) ※令和4年度	
11	椎名 沙織	長井市PTA連合会母親委員会副委員長 (致芳) ※令和3年度	
⑪	木村真由美	長井市PTA連合会母親委員会副委員長 (致芳) ※令和4年度	3号委員 【地域代表者】
12	上村 正巳	地区長連合会 会長 (中央)	
13	青木 与惣右エ門	コミュニティセンター代表	
14	大沼 幸枝	長井市スポーツ推進委員会・女性委員代表	4号委員 【幼保園関係者】
15	梅津 建太	児童センター父母の会連絡協議会 会長 (豊田児童センター) ※令和3年度	
⑮	赤間 正紀	児童センター父母の会連絡協議会 会長 (平野児童センター) ※令和4年度	
16	渋谷 弘美	白ゆり保育園 園長	
17	孫田 恵	はなぞの保育園 主任保育士	6号委員 【青年代表者】
18	鈴木 裕美子	小桜幼稚園 元教頭	
19	工藤 望美	長井商工会議所青年部・女性代表	
20	齋藤 憲幸	長井青年会議所 理事長※令和3年度	
⑳	齋藤 圭央	長井青年会議所 理事長※令和4年度	7号委員 【行政関係者】
21	齋藤 環樹	長井市副市長	
22	竹田 利弘	長井市 政策推進監	
23	青木 邦博	長井市 技監	
24	鈴木 嗣郎	長井市 財政課長※令和3年度	
㉔	佐藤 久	長井市 財政課長※令和4年度	

【オブザーバー】※番号に○のついている委員は令和4年10月からの後任者。小野卓也氏は令和4年度は検討委員会委員⑨として出席。

番号	氏名	属性・役職
1	遠藤 倫夫	長井市教育委員会 教育長職務代理者
2	菊地 和代	長井市教育委員会 教育委員
3	小野 卓也	長井市教育委員会 教育委員
4	齋藤 曉美	長井市教育委員会 教育委員 (令和4年9月30日まで)
④	鈴木 奈美	長井市教育委員会 教育委員 (令和4年10月1日から)

【事務局】※番号に○のついている職員は令和4年度からの後任者

番号	氏名	属性・役職
1	土屋 正人	長井市教育委員会 教育長
2	佐藤 秀人	長井市教育委員会 教育総務課長
3	目黒 孝博	長井市教育委員会 学校教育課長※令和3年度
③	横澤 聡一	長井市教育委員会 学校教育課長※令和4年度
4	小阪 寛幸	長井市教育委員会 教育総務課 補佐
5	鈴木 千鶴子	長井市教育委員会 学校教育課 補佐(兼)こども未来創造室長※令和3年度
⑤	今野 透	長井市教育委員会 学校教育課 補佐(兼)こども未来創造室長※令和4年度
6	新野 武憲	長井市教育委員会 教育総務課 教育総務主査

(4) 用いた思考手法

①バックキャスト思考

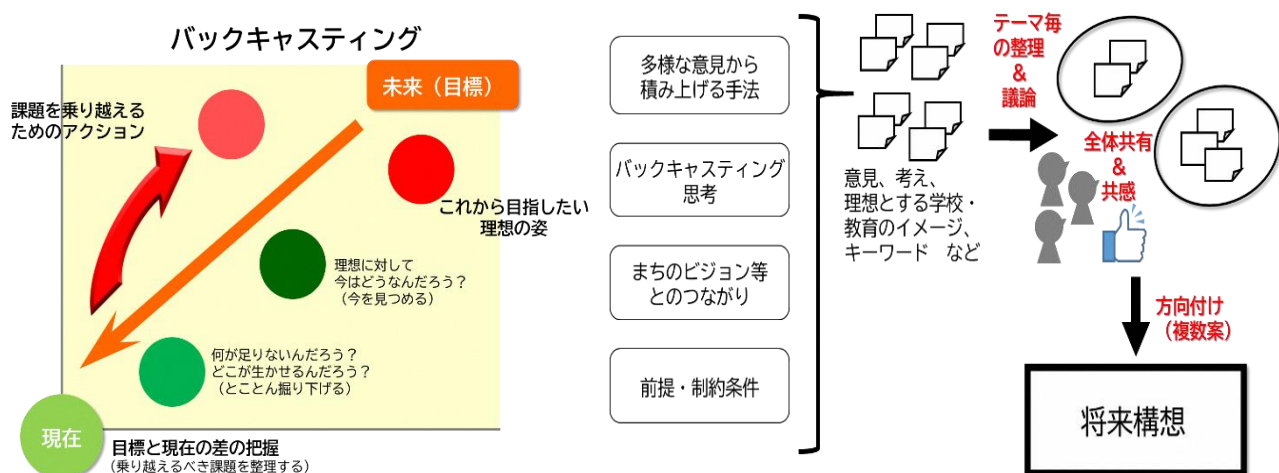
将来構想は20年後の「未来」を見据えて議論をしていくため、本検討委員会では「バックキャスト思考」という思考手法を用いました。「バックキャスト思考」とは、多様な意見をもとに組み立てる必要がある場合、可能性を広く検討したい場合、議論の前提条件が複雑な場合などに有効な方法と言われています。その反面、議論に時間がかかること、形が見えるまでわかりにくいことなどが短所と言われています。

会議の参加者はスタート時点では意見の出しにくさを感じる方法ですが、本検討委員会では敢えてこの方法を選択し、将来構想を「白紙の状態」から描き始めました。

②共同思考と共感

段階的に検討を進める中で、委員の意見や理想のイメージに基づいてテーマを整理し、そのテーマ毎にグループワーク等で議論を交わすことで将来構想を徐々に形作っていく、共同思考による検討プロセスとしました。

グループワークでは、沢山のキーワードや方策を個人毎に付箋に書き出して模造紙に貼り、グループの意見として整理した後、各グループの模造紙や個人の付箋に書かれた内容を参加者全員で見回り、全体で共有しました。見回りの際、他者や他のグループの内容に共感したのものには印をつけ、共感の多いキーワードや方策を抽出・整理することで、長井にふさわしい理想の姿や方策の方向付けを行いました。



【図】本検討委員会で用いた思考手法のイメージ



【写真】グループワークの様子

(5) 検討プロセス

①筆頭の目標を『子供の理想の姿』に

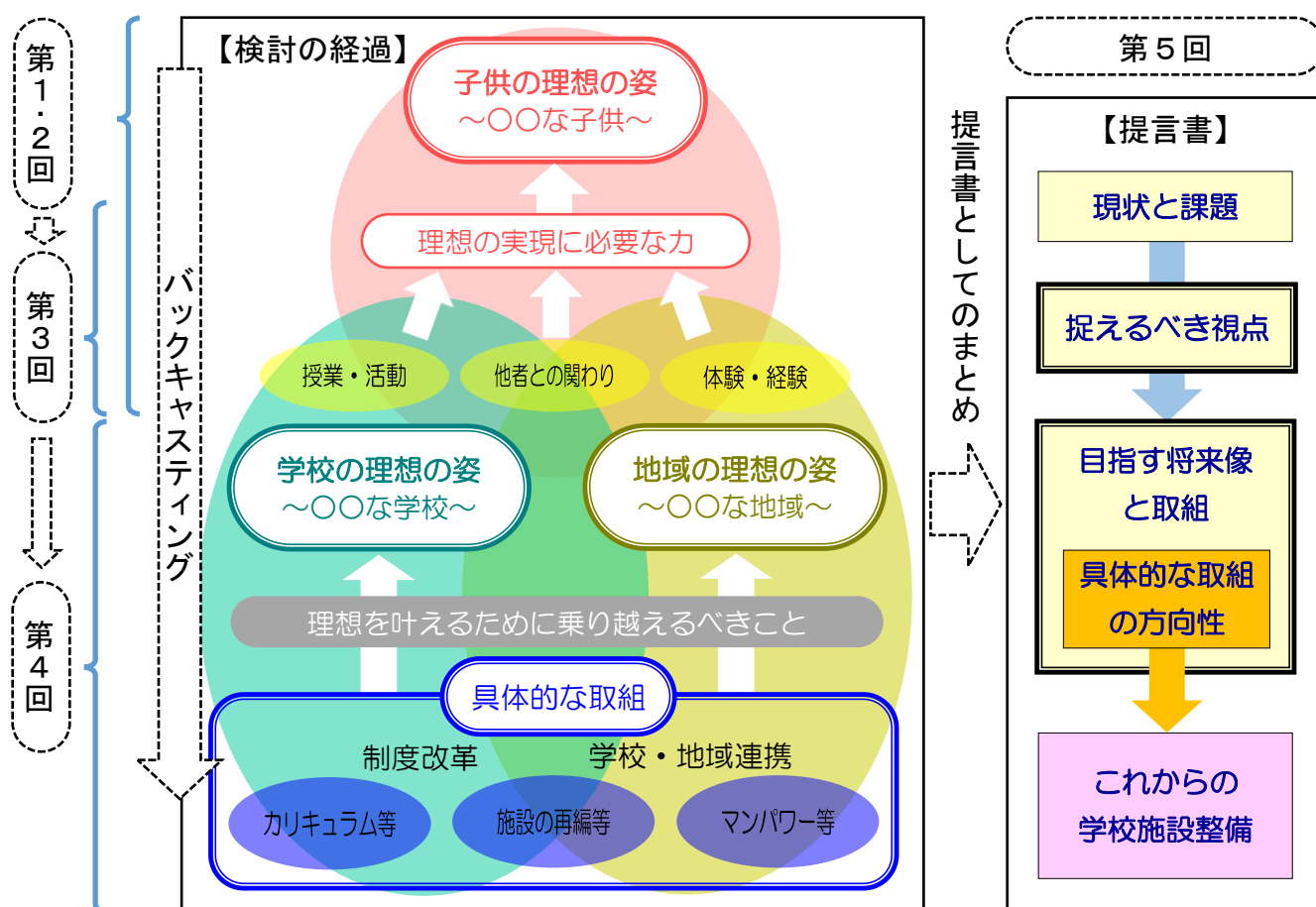
本検討委員会では、将来構想を白紙の状態からスタートし、はじめにバックキャスティング思考で目標を定めました。この将来構想は小中学校のあり方を示すものですが、目標の主体は学びを受ける権利者である子供達です。将来構想の筆頭に掲げる目標を『子供の理想の姿』とし、第1回、第2回会議における各委員の意見からキーワードを抽出して目標を設定しました。

②『学校』だけでなく『地域』の力を

第3回会議では事務局で整理した『子供の理想の姿』を提示した後、理想の実現に必要な力と、その力を育むためにはどんな授業・活動や体験・経験や人との関わりが必要か、学びの主体者である子供を取り巻く視点で意見を出し合い整理しました。なお、『子供の理想の姿』の実現には『学校』だけでなく『地域』にも協力を求める意見が多かったことは特筆すべき点です。

③将来構想にメッセージを込めて

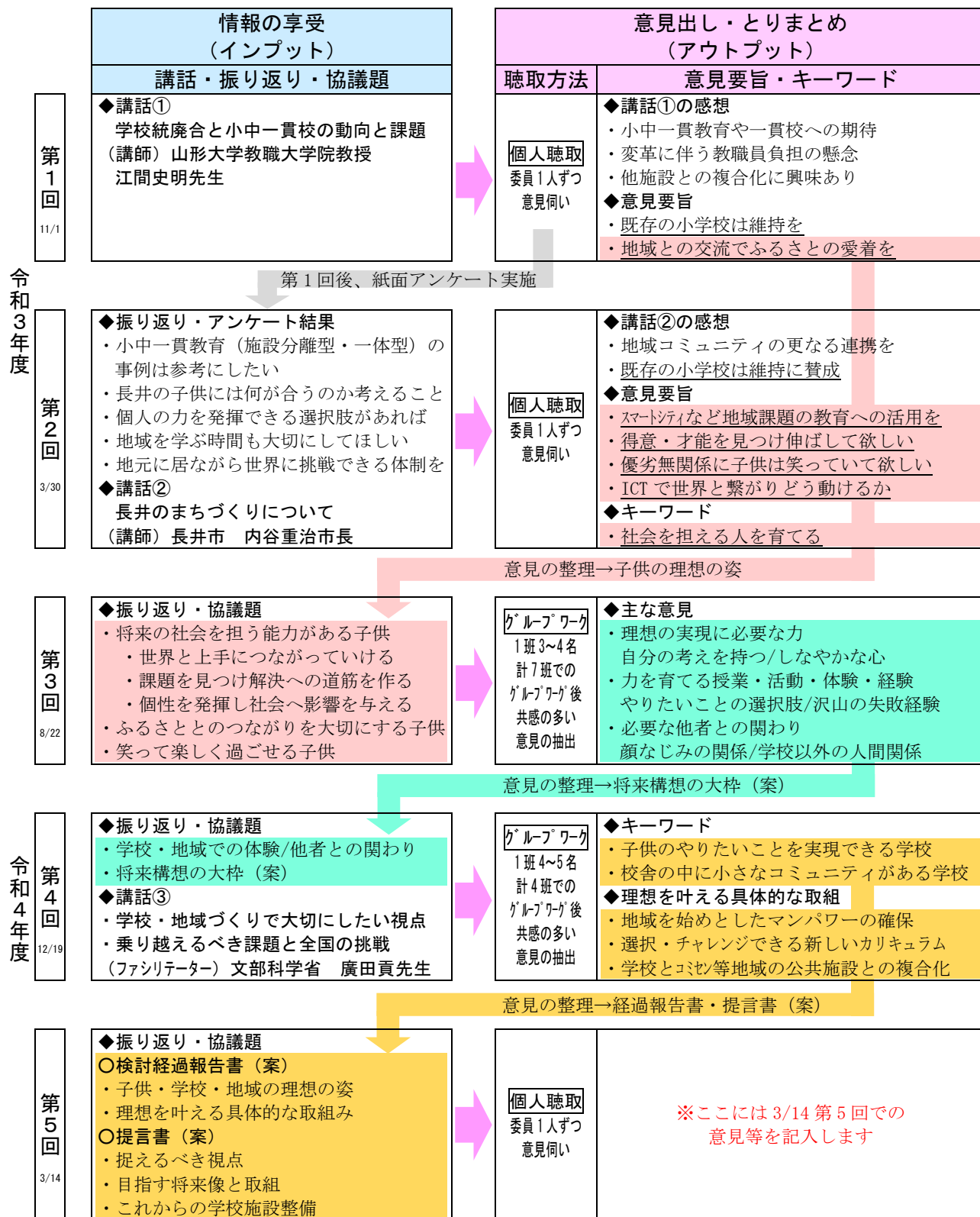
第4回会議では『学校の理想の姿』と『地域の理想の姿』について、メッセージ性のあるキーワードの他、理想を実現するための『具体的な取組』について意見を出し合いました。将来構想案は第4回会議までの意見を元に作成し、第5回会議前に本将来構想案を委員に提示し、第5回会議は本検討委員会としての提言書を確認・修正する最後の協議の場としました。



【図】 将来構想の構成と検討プロセスのイメージ

(6) 第1回～第5回プロセス詳細

各回、講話や前回までの振り返りで情報を享受後、個人聴取やグループワークによる意見出しを繰り返すことで、将来構想を徐々に描いていくプロセスとしました。



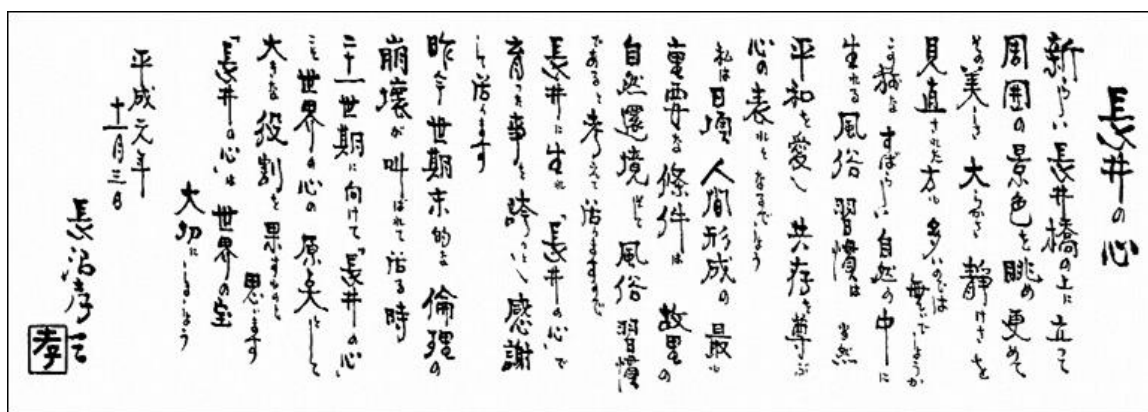
4. これからの学びと学校の在り方

(1) 捉えるべき視点

①子供の学びのあり方

i) 「長井の心」を拠り所にして

長井市は、第五次総合計画において「いのちを育み『長井の心』を未来につなぐまち」を教育目標として、思いやりの心を持ち、互いの個性を発揮し、尊重しながら、自立し、協働して、持続可能なふるさとを主体的に想像していく力を身に付けていくことを目指してきました。「長井の心」を学びの中心にすることは、長井市の恵まれた自然環境や文化の中で、「平和を愛し、共存を尊ぶ心」を育んでいくことであり、長井市にとってはいつの時代にも変わらない学びの中心となるものです。



【図】長井市名誉市民 長沼孝三先生の「長井の心」

ii) 学びのこれから

一方で、変化の大きな社会の中で、自らの幸せを実現するために必要な力を養うことも求められています。また、個人の幸せの実現は個人のみで成し得るものでないことから、社会全体又は世界全体との関係性も踏まえて SDGs やウェルビーイングの観点を持ち、他者と関わりながら学んでいくことも必要です。育んでいきたい子供たちの力を学校教育の中で実現するため、一人ひとりの子供の個別最適な学びと協働的な学びを考えていく必要があります。

②学校のあり方

i) ICT の活用と多様化への対応

GIGA スクール構想に基づく 1 人 1 台端末の整備によって、一人ひとりの理解度や学習状況の把握が可能となるほか、それぞれの状況に応じた学習を実施していくこともできるようになります。このことは、子どもたちの特性に配慮した学びを保障することに繋がります。

ICT 機器の活用により、教室が世界中とつながることもできるようになりました。探究学習や地域学習に 1 人 1 台端末を活用することにより、情報や知識の習得に加えて、多様な他者との協働的な学習を展開し、より深い学びとすることが求められています。これらは学びの多様化を保障することでもあります。その際に、子供たちの挑戦を後押しし、失敗を恐れずに支え続けることも大切です。

ii) 地域の力を学校へ

多様化する学校の学びは、地域とのつながりを強めていく機会にもなっていきます。現代的な学びは学校だけで完結することなく、地域の力も最大限に生かした学校にしていくことが求められています。

(2) 目指す将来像と取組

① 目指す理想の姿

本検討委員会では、これから目指していく長井市の理想の子供像や学校の姿を、次のように検討しました。

【目指す子供像】

- 不確実で正解がない時代だからこそ、子供たちが安心して何事にも挑戦できる学校であってほしいと願います。たとえ失敗を経験したとしても、仲間と支え合い、再び挑戦する子供たちであってほしいです。その積み重ねが未来を切り拓く力となり、将来の長井市を支える力となっていきます。

【私たちが求める学びの場】

- お互いが一人ひとりの個性を大事にして、理解し合えれば、安心感が生まれます。
- 子供達自身が安心して生活し、自らの興味・関心をもとに主体的に多様な学びに取り組めるようになれば、理想とする学校に近づけると考えます。
- これは学校だけが取り組むものではなく、実現のためには地域の力も不可欠です。
- 授業への地域人材による協力、伝統行事やイベントへの子供たちの参加があり、活動を通して育まれるたくさんのコミュニケーションや絆が、子供も地域の人も元気づけます。
- このような活動の場所となる学校施設は、学校と地域が子供を縁として密接に関わる場所であることが望ましいと考えます。
- 長井市の学校は、真に地域に開かれた場所として今後も整備・維持されていくことが期待されます。

②理想の実現のために

本検討委員会では、理想の子供像や学校の姿を実現していくために、長井市における学校教育や学校施設の将来の姿を次のように検討しました。

(i) 未来を切り拓くための確かな学力としなやかな心を育む

- ・長井や日本を担っていく子供たちに身に付けてもらいたい力や、取り組んでほしい学びとして、思いやりを持ち、何事にも挑戦するための力や心を大事にしていくこと、また、多様な考え方や自ら見つけた課題について学ぶことができることが挙げられます。
- ・これらの学びは、ICT を活用して国内外とつながり、交流を深めながら実現していくことも期待されます。



【求められる具体的な取組の方向性】

①一人ひとりの個性や挑戦することを大事にする教育

- ・子供一人ひとりを見つめ、その個性をしっかりと見極めるとともに、正解だけを求めず、失敗してもその過程も含めて成長を見守っていくこと。
- ・子供自身がやりたいと思う学びの選択肢が数多くあり、挑戦する気持ちを受けとめられる教育環境にしていくこと。

②多様性への理解や共存する心を育む教育

- ・少子化が進み、限られた人間関係になってしまう傾向の中で、人間関係の基礎となるコミュニケーションを土台として自分や他者の個性を相互に理解する力を身に付け、ともに育つ仲間を見つけ、楽しく過ごしていける子供を育てていくこと。

③多様で専門性のある学びや探究的な学びの実践

- ・学校や地域の中で、自分の関心のある分野を突き詰めていくことができる授業や得意分野をさらに深めていくことができる学びの場を作ること。

④世界とつながり、交流を深められる学び

- ・ICT環境を追い風として、距離や国の枠を超えて世界の人とつながり、友達を作り、自分の考えを持ってディスカッションしたり、交流したりできる子供を育てていくこと。

(ii) 学校と地域が共に子供を育む環境を創る

- ・未来を切り拓くための確かな学力としなやかな心を育むためには、学校の中だけではなく、学校と地域が一体となって子供を育てていくことが不可欠です。
- ・学校内外で地域の人達が子供に関わりを持ち、子供たちが安心して学び、交流できる環境を創っていくことが期待されます。



【求められる具体的な取組の方向性】

①地域の先生による地域学習の実施や学校への支援

- ・挑戦する力を身に付けるために必要な多様な学びの保障のため、学校だけでは不足する人的資源を地域の先生や専門家等の協力者による力で補っていくこと。

②子供の興味・関心や得意なことを引き出し、伸ばせる地域

- ・地域主体の課外活動やキャリア教育などを通して、学校生活だけでは引き出せない子供達の興味・関心や得意分野を見出し、主体的に挑戦する力を伸ばしていくこと。

③地域の人が子供と仲良くなり継続的に関わっていける地域

- ・子供たちが地域行事やお祭りなどを通して活躍の場があり、大人から認められる過程で自己肯定感が高められ、地域の人と子供達の関わりが継続される好循環を作っていくこと。

④学校・地域における安心と絆を育む居場所づくり

- ・子供たちが安心感を持ちながら成長していくために、学校の中にも地域の中にも自分の居場所があると感じられる空間を作っていくこと。

(3) これからの学校施設整備

①小学校は地域の核

長井市の小学校は、長井市の6つの地区に1校ずつ設置されています。また、中央地区以外の小学校名は地区名が冠されています。

【表】市内小学校6校の名称と児童数

地区名	小学校名	児童数(令和4年度)
中央地区	長井小学校	557名
地方地区	致芳小学校	124名
西根地区	西根小学校	135名
平野地区	平野小学校	139名
豊田地区	豊田小学校	161名
伊佐沢地区	伊佐沢小学校	50名

児童生徒数の推移は(1)これからの学校施設整備をどうするか ①児童生徒数の推移 に示した通り、児童数は過去30年間でおよそ半減しているものの、現時点でどの小学校も統廃合を進めるべき状況にはありません。もし、ある地区から小学校が無くなれば、連鎖的に児童センターの統廃合、子供のいる世帯の転居、コミュニティセンターや子供会などの地域行事の衰退など、地区のコミュニティが崩れる恐れが高まります。

このことから本将来構想においては、小学校6校は統廃合しない方向性とし、かつ小学校6校は地域コミュニティの核として位置付けます。

②取組の方向性に沿った学校施設整備

学校施設整備については、(1)捉えるべき視点と(2)目指す将来像と取組を踏まえ、これから目指していく子供と学校の理想の姿と、理想を実現するための取組の方向性に沿って考えていく必要があります。

学校施設整備は下記の例のように、取組の方向性によっていくつかのパターンが想定されます。現状を大きく変える施設整備だけでなく、現状維持の場合も考えられます。本将来構想では、学校施設整備について結論を絞るのではなく、理想を実現するための将来の選択肢を考えることとします。

(i) 現状維持の場合

現状維持の場合、学校と地域にある公共施設と、施設が分離したままの地域連携が考えられます。この場合は、長寿命化計画で示した優先順位により、建物毎の長寿命化改修を行っていくことが考えられます。

また、小学校と中学校が分離したまま、施設分離型の小中一貫教育を行うことが考えられます。この場合も、施設ごとの長寿命化計画で示した優先順位により、建物毎の長寿命化改修を

行うことが考えられます。

(ii) 現状を大きく変える場合

現状を大きく変える施設整備の場合、学校と地域にある公共施設との複合化が考えられます。例えば小学校に、コミュニティセンター、児童センター、学童クラブ等を複合化することが考えられます。

また、小学校の複合化と、施設分離型の小中一貫教育を併用することも考えられます。この場合、中学校は長寿命化改修をしていくことになります。

なお、小中一貫教育については、施設分離型の他、施設一体型の小中一貫教育の事例もありますので、併せて検討していくことが考えられます。この場合は、小学校と中学校との合築が考えられます。

本将来構想では、学校施設整備の選択肢を提言するまでに留め、より具体的に学校施設整備をどうするかは、残された課題として、長井市及び長井市教育委員会において検討が必要です。

長井市小中学校
将来構想検討委員会
検討の経過

長井市小中学校将来構想検討委員会 検討の経過

— 目 次 —

1. 検討の経過の趣旨	1
(1) 検討の経過から提言書へ.....	1
(2) 自由闊達な議論の経過を残す	1
2. 検討の経過	2
(1) 「理想の姿」についての意見	2
① 「子供」の理想の姿	2
② 「学校」の理想の姿	4
③ 「子供を支える地域」の理想の姿	7
(2) 理想と現実のギャップに関する意見	10
(3) より良い学校・地域をつくるための意見.....	11
① 「学び」に関すること.....	11
② 「学校・地域の環境づくり」に関すること	13
3. おわりに	15
4. 検討の経過と提言書との対応	16

2. 検討の経過

(1)「理想の姿」についての意見

①「子供」の理想の姿

(i)将来の社会を担う能力がある子供

《参考とした意見》

◆第2回会議での意見・講評

- ・戸沢村では学校を地域の一つとして位置づけし、社会力を育てようとしている。戸沢村で講義をしている門脇厚司先生は社会を担える人を育てることをコンセプトとしてカリキュラムを作っている

(ii)世界と上手につながっていける子供

《参考とした意見》

◆第2回会議での意見・講評

- ・パソコンが先生の代わりをするのではなく、文房具としてちゃんとパソコンを使えるか、世界や友達と繋がっていけるようになることが大事。対面で一人ひとりが向き合って話し合ったり考えたりする場が必要で、そういう場でどう動けるかが大事

《関連意見》「世界と上手につながっていける子供」の実現に必要なこと

◆第3回会議/グループワーク

■必要な「力」

- ・☆6 自分の考えを持ち、ディスカッションできる
- ・☆2 見知らぬ人でも友好的に話しかけることができる
- ・☆1 意見を文章に書き、口頭で説明できる
- ・☆1 生きた英語力を持っている
- ・☆1 いろんな国の人にあいさつできる
- ・スターなし…他世界の文化・時事・歴史に関心を持てる

(iii)課題を見つけ、解決への道筋を作る子供

《参考とした意見》

◆第2回会議での意見・講評

- ・長井市で1番注目しているのはスマートシティ。
- ・スマートシティから得られたデータを分析して、社会の仕組みの変革や新しい事業等のアイデアの基として考えることが学校教育で出来れば、学校と社会のニーズは合うのではないかと。

《関連意見》「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に必要なこと

◆第3回会議/グループワーク

■必要な「力」

- ・☆5 自分自身と自分のやりたいことを認知できる
- ・☆3 試行錯誤をとおしてより良い方向性に気付ける
- ・☆2 理想を考えることができる
- ・☆2 失敗してもあきらめないで交渉できる
- ・☆1 他者を思いやることができる
- ・☆1 みんなが良くなれる方法や手段に気付ける
- ・スターなし…いろんな関係を形成できる

(iv)個性を発揮し、社会へ影響を与える子供

《参考とした意見》

◆第2回会議での意見・講評

- ・若い頃から一芸に秀でて才能を開花させ、その分野の第一線で活躍している方は、穿った見方をすれば、得意分野以外については、もしかするとものすごくダメなところがあるかもしれない
- ・一芸を極め、才能を開花させて唯一無二の存在になるような環境づくりや指導方法等が確立できれば
- ・長井からそういう子が出てくれば、更に下の世代の子供達も憧れや興味を抱く、という好循環が出てくるのでは
- ・子供によって得意・不得意があるので、得意なものをいかに伸ばしてあげられるか

《関連意見》「個性を発揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に必要なこと

◆第3回会議/グループワーク

■必要な「力」

- ・☆5 同調圧力に負けない
- ・☆5 失敗も受け止められる・正解だけを求めないこと
- ・☆2 人との違いを気にしない
- ・☆1 自分の個性を認識することができる

- ・ ☆1 自分の価値を客観的に認知できる
- ・ ☆1 地域の価値と地域人材に気づくことができる
- ・ スターなし…何にでもチャレンジできる、コミュニケーションができる

(v) “ふるさと” とのつながりを大切にする子供

《参考とした意見》

◆第1回～第3回での意見・講評

- ・ 市外に出てもいずれは地元に戻ってきて欲しい
- ・ 長井で教育を受けさせたい、この環境で育てたい、と思ってもらうことが重要
- ・ 小学校の頃の思い出は、地元のお祭りや、獅子舞を学校で教えてもらったこと。小学校時代は地域の文化や伝統にそれらに関わり始める大事な時期である
- ・ 子供の時代に地区行事やお祭りへの参加など、育った環境の中で長井への意識づけがなされる
- ・ 地域への帰属意識に繋がる教育が出来れば
- ・ 長井が大好きかどうか、幼少の頃から地域の人と触れ合い、地域の事を詳しくわかっているか
- ・ 子供が長井に帰ってくる一番の理由は「親の背中」ではないか
- ・ いくつかの自治体と関わった中で見ると、ふるさとへの愛着は、人と関われるかに拠るところが大きいようだ。世代を超えて地域の色々な人たちと関わって一緒に何かをやること、一緒にやれる条件を揃えていくプロセスがふるさとへの愛着を生む

《関連意見》「“ふるさと” とのつながりを大切にする子供」の実現に必要なこと

◆第3回会議/グループワーク

■必要な「力」

- ・ ☆1 地域を愛する心を持っている
- ・ ☆1 多くの人と関わることができる
- ・ ☆1 地域の良さを認知できる
- ・ ☆1 地元の良いところ、悪いところを言える
- ・ スターなし…伝統行事を大切にできる、あいさつとコミュニケーションができる

(vi) 笑って楽しく過ごせる子供

《参考とした意見》

◆第1回・第2回での意見・講評

- ・ 特に秀でることがなくても、笑って毎日楽しく過ごしてほしい
- ・ 学校に行けない子がいることも身近で感じている。
- ・ 1番は人間関係。人間関係がしっかり出来ていると、明日も頑張れる、つらい事も乗り越えられるので、仲間を見つけしていくことが必要
- ・ 少子化が進み、限られた人間関係の中だけで生きていかなければならないのは、子供達には苦しいのかなと思う
- ・ 子供にとって少々の逃げ場があれば
- ・ 人間関係の形成は、学習環境にも影響する非常に重要な点
- ・ 子供の数が減り部活動の濃密さが減ったせいとか、昔に比べて生徒同士の人間関係が浅くなったように感じる

《関連意見》「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に必要なこと

◆第3回会議/グループワーク

■必要な「力」

- ・ ☆5 しなやかな心を持っている
- ・ ☆4 他者の個性を認めることができる
- ・ ☆4 ストレスを解消できる（ストレスフリー）
- ・ ☆3 ストレスに対応し回復できる（レジリエンス）
- ・ ☆3 何事も楽しいと思える
- ・ ☆3 辛ければ逃げることができる
- ・ ☆2 負けたときの潔さがある（グッドルーザー）
- ・ ☆1 何事もポジティブに考えられる
- ・ スターなし…他者を認め、受け入れることができる、大変なことがあっても受け止められる（目を背けない）、トラブルを乗り越えることができる、いじめをしないといわれる

②「学校」の理想の姿

(i) 子供の“やりたい！”を実現できる学校

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●11 子供の“やりたい”を実現できる（i分）※iiiとviに重複

・○1 やってみたい気持ち1つ1つに対応できる学校

・●7 やりたい事へのチャレンジができる

・丸なし…やりたいことにチャレンジ、子供の“やりたい”を具現化する、個々の追求テーマに対応できる、子供達のチャレンジをサポートする

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

・スターなし…自分でテーマを掘り下げる探求型の学習ができる、自分たちで意見をまとめ、先生と調整・交渉する機会がある、異なる意見の中で落としどころを探る活動がある、ICTがフル活用されている

■「個性を発揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

・☆4 やりたいことの選択肢が沢山ある

・☆3 子供のリクエストに応じた授業ができる

・☆2 自分のやりたいことが実現できる環境がある

・☆1 勉強以外でやってみたい事のアンケートの機会がある

・☆1 個人テーマの追求学習の機会がある

・☆1 子供がやりたいことを実現することができる

・☆1 プログラミングを突き詰めることができる

・☆2 ある分野のトップである人や物事に触れる機会がある（No.1に触れる）

・☆1 子供の意見に幅広く対応できる相談窓口がある

・☆1 先生の考え方が進化している

・スターなし…学びの現場と学校教員に余裕がある

◆第1回～第3回会議

・学校は、一人ひとりの好きなこと、得意な分野が生かせる場所であって欲しい

・子供が自分の未来を考え、夢を実現していく自由な発想が出てくるよう、子供達の意見を聞けるような場があれば

・勉強や余暇に費やせる時間は都会と田舎では差がある。進学などに際し、子供が伸び伸びと教育を受けられる予算を

(ii) “主体的な学び”にチャレンジできる学校

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 新授業のある学校（ii分）※viに重複

・○1 子供の個性を伸ばす

・丸なし…今日のニュースで話し合い、学べる環境がある

・●1 子供が生きる学校（ii分）※viに重複

・○7 チャンスがありチャレンジできる

・○2 やりたいことがチャレンジできる学校

・○2 チャンスにあふれた学校

・○2 起業家精神を養える

・丸なし…学びの発表の場がある学校

・丸なし…子供を活かす学校

・○5 可能性を広げる

・○4 興味のあることを学べる

・○2 探究する

・丸なし…子供の主体性がある

・丸なし…主体的に提案が出せる、子供達でルールや授業が作れる、子供が課外活動を発表できる、子供達が自分の考えを表現できる

《関連意見》

◆第1回～第3回会議での意見・講評

・自分がなすべきことを見出すためには、探求型の学習が有効ではないか。子供に対しての内面的なサポートもしっかりとすれば将来に繋がる。

(iii) 多様で専門的な学びを選択できる学校

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●11 子供の“やりたい”を実現できる（iii分）※iとviに重複

・丸なし…やりたい事の選択肢が沢山あり実現できる学校

- ・●10 子供が学びを選ぶ
 - ・丸なし…一日の半分は学びを選択できる、課外授業を選ぶ、学びを選ぶ
- ・●5 多様性と専門性（iii分）※vに重複
 - ・丸なし…様々な分野の第一線にいる方から学ぶ機会、日本や世界で活躍する人からオンラインで話を聞ける機会
- ・●3 子供個人のペースでゆっくりじっくり学べる（iii分）※ivに重複
 - ・○3 学校の独自性・選択制で特定の得意分野がある学校
 - ・単独/○1 他の学校に行き行って学べる

《関連意見》

- ◆第1回～第3回会議での意見・講評
 - ・子供達の選択肢を広げていくために、先進的な情報や技術に触れる機会も大事
 - ・ハイレベルな技術や知識を持った専門家の話を聞ける場や、大学講義のような授業が増えれば

(iv) 個人のペースでじっくり才能を伸ばせる学校

《参考とした意見》

- ◆第4回会議/グループワーク
 - 学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》
 - ・●3 子供個人のペースでゆっくりじっくり学べる（iv分）※iiiに重複
 - ・○3 年齢に拠らない習得優先型の進級システム

《関連意見》

- ◆第1回～第3回会議での意見・講評
 - ・才能を見つけ、得意なものを伸ばし、育ててあげる教育を。また長井の代表的な何かで子供が出来るものがあれば
 - ・文科省では、発達障がいと共に優れた才能を持つお子さんに焦点を当てて、障がいに對するケアと同時に併せ持った才能をケアしていく 2E（トゥーイー）教育を進めていく

(v) 世界とつながり国際感覚を育む学校

《参考とした意見》

- ◆第4回会議/グループワーク
 - 学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》
 - ・●5 多様性と専門性（v分）※iiiに重複
 - ・丸なし…外国人の生徒がいる、色々な言語が学べる
 - ・●1 世界とつながる学校
 - ・○1 英語力が高い
 - ・丸なし…国際感覚を身に着ける、グローバル

《関連意見》

- ◆第3回会議/グループワーク
 - 「世界と上手につながっていける子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント
 - ・☆3 ICTを使って外国との交流・関係構築ができる
 - ・☆1 作文が日常的に行われる
 - ・☆1 ディベートが日常的に行われる
 - ・☆1 世界の人の生活ぶりが学べる
 - ・☆1 ホームステイができる
 - ・スターなし…英語だけで過ごす時間がある（English only day time）、外国に関わる学び・体験がある、外国人と交友関係がある人から話を聞く機会がある、海外文化を動画で学べる、外国に関する学びを発表・実践する機会がある、読書会が盛んにある（ビブリオバトル）
- ◆第1回～第3回会議での意見・講評
 - ・英語で日常会話ができるレベルに到達するような教育・予算付けが出来れば

(vi) 安心感と自己肯定感をみんなで高め合う学校

《参考とした意見》

- ◆第4回会議/グループワーク
 - 学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》
 - ・●11 子供の“やりたい”を実現できる（vi分）※iとiiiに重複
 - ・○1 失敗なんて当たり前！な学校
 - ・●8 自己肯定感の高い学校
 - ・○1 気持ちを言語化するトレーニング
 - ・丸なし…良い所を言えて伸ばす、これが好き！と言える、子供に考えさせる、教科だけでなく得意なことを伸ばせる
 - ・●5 新授業のある学校（vi分）※iiに重複
 - ・丸なし…失敗学の授業
 - ・●3 安心感が高い学校
 - ・○1 自分の居場所と安心感が満ちている、
 - ・丸なし…子供が自分の意見を言いやすい環境、子供が先生になり子供同士で学び合える
 - ・●2 安心づくりがなされている
 - ・丸なし…個性を大切にできる、みんなで良いところを褒め合う、違いを認められる、ジェンダーで悩む人も平等、困っていることを相談でき、困っている人に気づける、支援が必要な子供がトレーニングで不安なく過

- ・ ●2 自由な雰囲気の学校
 - ・ 丸なし…自由に発言できる、自発的に行動する、アイデアをもらう・提案できる、この場所があるから行きたい学校、いつも仲間がいる
- ・ ●1 子供が活きる学校（vi分）※ ii に重複
 - ・ ○1 校則が時代に合っている

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

- ・ ☆4 子供の生活時間に余裕がある
- ・ ☆1 市内の学校同士で交流する機会がある
- ・ スターなし…道徳の時間で心を耕す機会がある、インクルーシブな道徳授業が盛ん、児童会・生徒会が盛ん、いじめ解決のための協働思考の機会がある、他者から評価をもらい個人の良さの見える化の機会がある、障がいのある人の話を聞く機会がある、中1ギャップへの対策がなされている

◆第1回～第3回会議での意見・講評

- ・ 少子化で限られた人間関係の中で生きていかなければならないのは子供達には苦しいかも。区域外の学校にも通えれば、子供にとって少々の逃げ場になる

(vii)学校の中に“学校じゃない場所”がある学校

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■学校の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

- ・ ●8 学校の中に学校じゃない場所がある
 - ・ ○1 教員以外の人が沢山いる
 - ・ 丸なし…校舎の中に小さなコミュニティがある、学童以外の子供も自由に集まれるフリースペースがある
- ・ ●1 遊びのある学校
 - ・ 丸なし…遊びを科学する、友達との共通の楽しみ
- ・ ●1 校外授業がある
 - ・ ○1 子供と一緒に大人も学べる
 - ・ 丸なし…学校外でも学びを求める、充実した課外活動ができる
- ・ 丸なし…地域交流のある学校
 - ・ 丸なし…地域の人といつでも触れあえる、地域住民が出入りする
 - ・ 単独/丸なし…地域学習で地域の方々と仲良くなれる環境、繋がる力が高まる

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「“ふるさと”とのつながりを大切にする子供」の実現に必要な「授業・活動」→「学校」の理想の姿のヒント

- ・ ☆2 地域の先生に授業をしてもらえる
- ・ ☆2 総合学習等で地域の方が先生になってもらう
- ・ スターなし…地域学習の機会がある、長井の歴史を学ぶ機会がある、長井の公共施設を巡る機会がある、地区・まち歩きの機会がある、校外学習の機会が多くある、地域の良さを再発見する機会がある、クラブ活動等で地元の産業を取り入れる機会がある、幼児施設・福祉施設等へ訪問する機会がある、授業参観の機会がある、PTA 活動が盛ん、休日の部活動はできるだけ減らす、端末を使って地域クイズ巡りの機会がある

◆第1回～第3回会議での意見・講評

- ・ 学校にコミセン等の他施設を入れて学校が複合施設化した場合、地域の方との交流など、新たにどのような展開が出来るのか色々考えている。
- ・ 校内に地域住民との交流スペースがある学校の事例に興味を持った。
- ・ 高齢者でも気軽に使用できる場所が学校内にあるとありがたい。
- ・ 幼稚園の複合化はとても良い。ステップアップ先が目の前にあり、子供達はワクワクする。

③「子供を支える地域」の理想の姿

(i) 子供の得意なことを伸ばしてくれる地域

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■地域の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●15 得意なことを伸ばす地域

- ・丸なし…特技を持つ子供の発表の機会、自分の得意分野を教えてくれる先生が地域にいる、子供たちのやりたいことを発信できる

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「個性を發揮し、社会へ影響を与える子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

- ・☆4 子供が先生になる機会がある
- ・☆3 子供達が主導するイベントの機会がある
- ・☆1 学校での学びを支援できる専門家がいる
- ・スターなし…子供の放課後時間を活用できる、学校とは異なる活動やチャレンジの機会がある、仲間づくり・協力体制のロールプレイができる、高校生との活動や繋がる機会がある

【経験・体験】

- ・☆1 障がい等に関係なく公平にチャレンジできること (G3)
- ・☆1 有償ボランティア体験 (G3)
- ・スターなし…才能を大人が認めて褒めてくれる成功体験 (G3)、自分を理解してくれる人 (G3)

【他者との関わり】

- ・☆2 同質・同水準からの脱却 (G3)
- ・スターなし…個性が似た者同士での集まり (G3)、安全な SNS・子供だけのコミュニティ (G3)、学校以外での先生 (G3)

(ii) 地域主体の課外授業が盛んな地域

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■地域の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 地域主体の課外授業がある

- ・丸なし…課外活動を選べる、子供対象のイベント等、充実した課外活動ができる、子供の社会参加やキャリア経験、伝統行事を守っていきけるような地域に

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「課題を見つけ、解決への道筋を作る子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

- ・☆2 グループで1つのものを作り上げ、地域の方から評価してもらう機会がある
- ・スターなし…縦・横のつながりによる協働作業や学びの機会がある、地域での福祉活動

【経験・体験】

- ・☆3 他者との交流での失敗・再チャレンジ体験 (G2)
- ・☆3 他者と関わることが苦手な人もいることを知ること (G2)
- ・☆2 新分野の知識・自分に無い能力の吸収 (G2)
- ・☆1 苦しさを他者と共に味わう体験 (G2)

【他者との関わり】

- ・☆1 子供がそうなるために親も気づきのある人であること (G2)

◆第1回～第3回会議での意見・講評

- ・まちなかを活用した教育の在り方も方法の1つとしてあるか。
- ・長井市内の会社・施設を見学し、本物を見る、触れる機会はとても大事。
- ・市内の既存施設でも子供達の活動が出来るのではないかな。結果、地域に開かれた学校の実現にも通じるのではないかな。

(iii) 顔なじみの交流と絆がある地域

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■地域の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 顔なじみで絆のある地域

- ・丸なし…子供の顔と名前がわかる、誰もが子供に関わる、子供が雑談できる、いつの間にか余所者も顔なじみになる、子供の顔を覚えてもらい地域の人との関わりを持つ

・●2 交流が盛んな地域

- ・丸なし…公民館の会議に子供が参加、気軽に集まれる場、交流できる場と人がいる、地域内ホームステイ、高齢者と子供が同じことをする

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「ふるさと」とのつながりを大切にする子供の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

- ・ ☆4 子供会行事が盛ん
- ・ ☆2 近隣の子供会が合同で行事を行える
- ・ ☆2 お祭りへの参加が積極的である
- ・ ☆1 伝統行事の継承で広く他者と関わる機会がある
- ・ ☆1 イベントやお祭りに参加できる環境づくりが上手い
- ・ ☆1 中学生の行事への参加が多い
- ・ ☆1 子供会で卒業した先輩と交流できる
- ・ ☆1 地名発見スタンプラリーがある
- ・ ☆1 大人たちの積極的な飲み会がある
- ・ スターなし…生涯スポーツ・大会への参加が盛ん、子供達がボランティア活動できる機会がある、活動を継続していくために慣習を見直すことができる、子供達が職場見学や体験学習をさせてもらえる機会がある、獅子舞などの発表会の機会がある、祭りの動画配信等、情報発信がなされている、廃品回収などの子供会行事が盛ん、地元の祭りへの参加が多い、地区の運動会への参加が多い、世代間交流の機会が多い、遊び場などの環境が整っている、住民みんなで子供達を見守る

【経験・体験】

- ・ ☆2 地元の自慢の宝物との触れ合い (G4)
- ・ ☆2 お盆等に顔を合わせること (G5)
- ・ ☆1 幼少期から地域活動に関わる経験 (G4)
- ・ ☆1 世代を超えた交流 (G4)
- ・ ☆1 子供会への参加体験 (G4)
- ・ ☆1 遊ぶ場所を知っていること (G5)
- ・ スターなし…地区住民との交流で受け入れてもらった自己肯定感 (G4)、プラス思考で良いところを伸ばすこと (G5)、行事への参加 (G5)

【他者との関わり】

- ・ ☆6 子供たちの名前を覚えること (G5)
- ・ ☆3 子供のいない世帯からも協力を得られること (G4)
- ・ ☆2 保護者の協力体制が整っていること (G4)
- ・ ☆2 親同士が知り合いであること (G5)
- ・ ☆2 子供が地域に愛されていること (G5)
- ・ ☆1 地域活動への積極さのための親の参加 (G4)
- ・ スターなし…どの家の子供か大人が知っていること (G5)、子供が参加するための親の協力 (G5)、親の収入の安定 (G5)

◆第1回～第3回会議での意見・講評

- ・ ここに住んで子育てをし、子供達に色々な事を教え、子供達と沢山関わる場所を。
- ・ 長井で育った子供が長井に戻ってきたいと思える仕組み作りを
- ・ 地元に戻ってきた時のやりがいも必要
- ・ コミュニティ、ネットワークの質をどうやって上げていくか、人同士の繋がりを質的にどう高めていくか

(iv) 子供一人ひとりを認め、受け皿となってくれる地域

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■地域の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

- ・ ●4 子供を認め受け止めてくれる受け皿となる地域
 - ・ ○4 地域の大人に認められる場所
 - ・ ○1 子供の声を受け止められる
 - ・ 丸なし…子供の活躍の場がある、地域に不登校の子供の受け皿がある、子供に声と目をかけられる
- ・ ●2 安心づくりがなされている
 - ・ 丸なし…みんなが良いところを褒め合う地域、安心して遊んで経験を蓄積できる、楽しく息抜きができる
- ・ 丸なし…見守りが多い地域
 - ・ ○4 頼れる大人が身近にいる
 - ・ 丸なし…子供達を温かく見守る、子供を思いやる
- ・ 単独/○1 勤労とマナー獲得が体験できる

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「笑って楽しく過ごせる子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

- ・ ☆1 様々な方の職業について話を聞く機会がある
- ・ ☆1 不登校の子供を受け入れる活動がある
- ・ スターなし…校外ボランティア活動が盛ん、市内の子供会同士で交流する機会がある、異世代との交流が盛ん、

【経験・体験】

- ・ ☆9 親に愛されていること (G6)
- ・ ☆7 自分の行動・作品等について沢山褒められること (G6)
- ・ ☆7 沢山の失敗経験 (G7)
- ・ ☆5 他者から認められる経験 (G7)
- ・ ☆4 お世話になった体験から世話する側への成長 (G6)
- ・ ☆1 地域行事に主体的に関わること (G7)

- ・ ☆1 多様な考え方を知ること (G7)
- ・ スターなし…親や周囲に認められていると思うこと (G6)、自己肯定感・有用感 (G6)、喜怒哀楽の経験 (G6)、自分たちの生活の質は自分たちで高めようとする事 (G6)、同じ目的を持つ仲間と活動した達成感 (G6)、みんなが楽しいことが自分も楽しいと思えること (G6)、学校以外の学び (G6)、家族と一緒に過ごせること (G7)、大人と一緒に1つの事業を体験 (G7)

【他者との関わり】

- ・ ☆3 安心して言いたいことが言えること (G6)
- ・ ☆1 学校だけでない人間関係 (G7)
- ・ スターなし…親にも心の安定・余裕が必要 (G6)、子供たちの周りが笑顔で見守れること (G7)

(v)長井の文化・行事・遊びを通し、オープンで楽しい交流が出来る地域

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■地域の理想の姿 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・ ●2 遊び場の多い地域

- ・ 丸なし…子供が安心して遊べる場所がある、子供の居場所がある、子供の声が聞こえる

・ ●1 参加型の地域

- ・ ○3 世代間の交流・繋がりのある地域
- ・ 丸なし…文化を知り触れ合える地域

・ ●1 楽しい行事の多い地域

- ・ 丸なし…子供が参加できる行事が沢山ある、地域行事に参加、外遊びのリバイバル、地域の楽しみの共通認識がある
- ・ 単独/丸なし…子供達と挨拶し合える地域、世代を超えて交流できる、学校と地域行事の共有、近くの会社も一緒にする
- ・ 丸なし…オープンな地域イベント・お祭り、フラットな地域

《関連意見》

◆第3回会議/グループワーク

■「世界と上手につながっていける子供」の実現に関して→「子供を支える地域」のヒント

【活動】

- ・ ☆3 海外の方も地域行事に参加できる
- ・ ☆2 地域の外国人との交流会がある
- ・ ☆1 同世代の外国の子供との交流や遊ぶ機会がある
- ・ ☆1 インバウンドの滞在型観光に参加できる
- ・ スターなし…観光のイベント・ツアー化

【経験・体験】

- ・ ☆1 海外の料理を食べたり作ったりすること (G1)

◆第1回～第3回会議での意見・講評

- ・ 伝統的な文化をどうにかして残す仕組み作りを
- ・ 今までの取り組みの中で、本当に必要だったもの、削減・縮小しても良さそうなものの吟味が必要
- ・ 地域活動については、削減やコンパクト化も必要
- ・ 役割が特定の人に集中しがちで、人材のバランス調整は課題
- ・ 長井市民全体でまちづくり等について考えるような機会があれば
- ・ 地域のコミュニティをもっと連携させたい
- ・ コミセンの運営協議会に学校関係者が加われば一緒に議論出来るのでは。ただし先生は異動で入れ替わるのが課題
- ・ 便利だけを求めないという価値観を持った人も居る。長井だから経験できるものも考えて欲しい。
- ・ 長井は全体的に情報の発信がもう少し上手く出来れば良いのと思うことがある
- ・ 情報は、自らが発信することにより求める情報が集まってきて、物事が動き出す面がある

(2) 理想と現実のギャップに関する意見 …

理想に至るまでの懸念や課題

(i) 教職員の人手が足りない

《参考とした意見》

- ◆第1回～第3回会議での意見・講評
 - ・学校・教職員の余裕が必要
 - ・特殊な学びは教えられる先生がいない
- ◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

- ・●2じっくり興味を活かす(3)①のi、(3)①のiv、(3)①のiに重複)
○3先生を増やす
- ・丸なし…選択幅の拡大と教員数の増員

(ii) 特殊な学びは今のカリキュラムでは実現が困難

《参考とした意見》

- ◆第1回～第3回会議での意見・講評
 - ・特殊な学びの時間は今の小中学校のカリキュラムではカバー出来ない
 - ・文科省が管轄している教育の枠組みから、敢えて逸脱していくような挑戦が求められていると感じる

(iii) 子供たちの選択と多様性を後押しする場所やマンパワーが足りない

《参考とした意見》

- ◆第4回会議での意見・講評
 - ・選択と多様性を次のステップに進める場をどうやって設定するか、それを実現するためのマンパワーをどうやって集めるか

《関連意見》

- ◆第3回・第4回会議/グループワーク
 - 協力者として想定される方
 - ・地域内協力者（地域の役員、伝統文化の指導者、高校生、高齢者等）
 - ・地域外協力者（都市部の若者、ボランティア、外国人または接点のある関係者）
 - ・協力企業・団体（NPO、クラブチーム、青年団体等）
 - ・著名人協力者（専門家、経営者、芸能人、YouTuber 等）
 - ・ボランティアを求めている団体、施設
 - ・マッチングさせるコーディネーター

(3) より良い学校・地域をつくるための意見 …

具体的な取組

①「学び」に関すること

(i) 子供が主体性をもって選べるカリキュラムづくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム ((3)①のiii、(3)②のiと重複)

・丸なし…必修科目と自由選択科目のあるカリキュラム

・●2 じっくり興味を活かす ((2)のi、(3)①のiv、(3)②のiに重複)

○3 魅力あるカリキュラムを作る

○2 話を聞きたい人・職業に話を聞きに行く (オンラインでも)

○1 小学校から単位制・選択制

○1 長井市以外からの受け入れ

・丸なし…小中学生からのホームステイ学習、繋がる力を身に着けるために楽しく始めるコミュニケーショントレーニング

・丸なし…カリキュラムの変更 (※事務局補足) ((3)①のivと重複)

○4 選択できる科目を作る・増やす

・丸なし…地域の文化を生かした特色ある授業

・丸なし…“やりたい”を実現できる授業・取組 ((3)①のvと重複)

・丸なし…子供の意見・回答を否定しない、答えが複数ある授業

(ii) 専門性へのチャレンジや活動の場づくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 チャレンジ

○2 子供だけでチャレンジ制作プロジェクト

・丸なし…専門性へのチャレンジ、子供が参加したいと思える活動の場を増やす

(iii) 幼保連携や小中学校の9年間を見通した教育計画

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム ((3)①のi、(3)②のiと重複)

・丸なし…5・6年生から中学校へ通う緩やかな小中一貫教育

・●4 幼保小中連携

・丸なし…小中学校の9年間を見通した教育計画と6・3制の見直し、幼保小一元化

《関連意見》

◆第1回会議/小中一貫教育等の講話を受けての意見

■小中一貫教育に対する期待・懸念

【○期待】

・子供の発達段階に応じた教育は大事。

・「中1ギャップ」は親子共に不安。これが解消されるのはとても良い。

・交友関係が継続できる小中一貫教育はとても良い。

【△懸念】

・「中1ギャップ」の緩和にはなるが、教職員の負担は増えそう。

・「中1ギャップ」が緩和される反面、新たな希望、成長の節目をどう作るか。

■学年段階の区切り

・6・3制と4・3・2制のどちらが良いかは難しい。

・長井でも4・3・2制の導入もありだな、と思う反面、教職員は人手不足になるのでは。特に小学校の先生は学級担任制で非常に変だと思う。

・多くの子供が「中1ギャップ」でつまづいているので、小中一貫校ができたらいいなと思うが、6・3制か、それ以外が良いかはそれぞれ利点・欠点があるので判断が難しい

■長井小卒業生の南北分離

・長井小は中学校進学で南北に分かれ、小学校時代の同級生と一緒に活動が出来なくなる、仲の良い友人と離れて落ち込む、といった問題あり。

(iv) ICT やオンラインを活用した学び

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

- ・ ●2じっくり興味を活かす (2)の i、(3)①の i、(3)②の i と重複)

○1 オンラインで他校の授業を受けられる

- ・ 丸なし…オンラインシステムの構築と強化

○2 ICT 学習・オンライン学習の強化

- ・ 丸なし…オンライン授業の機会を増やす、オンラインでの学びを発表する機会

- ・ 丸なし…カリキュラムの変更 (※事務局補足) (3)①の i と重複)

○2 オンライン授業で登校日を減らす

(v) 子供のやりたいことを拾い上げる取組

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワーク

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

- ・ 丸なし…“やりたい”を実現できる授業・取組 (3)①の i と重複)

- ・ 丸なし…子供による「やりたいこと会議」、大人による「やりたいこと応援事業」、投票で1位になったものから実現させていく取り組み

②「学校・地域の環境づくり」に関すること

(i) 地域の先生や外部の専門家による課外授業等への協力体制づくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●10 地域の先生

- ・丸なし…地域人材の活用、地域の先生に沢山参加してもらい、地域人材バンク、保護者会 OB、コミュニティ・スクールへ地域の専門家に協力してもらう

・●5 主体性をもって選べる・チャレンジできるカリキュラム ((3)①の i、(3)①の iii と重複)

- ・丸なし…課外授業の地域への移行

・●2 じっくり興味を活かす ((2)の i、(3)①の i、(3)①の iv に重複)

- 2 教員免許が無い方でも講師として授業を持ってもらう

・●2 人材の確保

- 2 専門知識のある先生が学校を自由に回る

- 2 地域を超えた支援者との繋がりを増やす

- ・丸なし…先生が必要、外部講師を招く、地域人材バンク、外国語コミュニケーション力のある先生、地域の学習と先生を増やす

・●1 学校と地域の連携を図る体制づくり

- 1 学校との連携組織をつくる

- ・丸なし…子供達の“やりたい”を拾い上げる体制、地域で協力し合う

- ・単独/○3 職人技の価値付けとそれに見合う報酬

(ii) 子供と大人が安心して絆を育めるコミュニティスペースづくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●9 子供のための（+大人も）安心と絆を育む居場所づくり

- ・丸なし…空き教室を活用してコミュニティスペースをつくる、コミセンと学校の共有スペースをつくるか一体化した建物とする、学校内に第3の居場所（サードプレイス）と人間関係をつくる、学校とコミセン・児童センター・学童クラブの複合化、子供達が放課後を自由に過ごせる、教室等を開放し宿題等しながら親の迎えを待てる、地域の人に場所を開放できる人を募る（お店など）

・●7 安心感のある居場所・受け皿づくり

- 3 コミセン内に不登校・学校に行けない子供を受け入れる場所がある

- 1 学校とコミセンが近くにあり子供達が自由に往来し学べる

- ・丸なし…子供の流れを学校から地域へ、地域に開けた学校、地域の方々も利用でき子供達と触れ合う場所

・●5 居場所づくり

- 3 様々な施設を効果的に活用

- ・丸なし…学童保育時間の場所づくり、自治公民館の活用

・●5 行事から変革

- ・丸なし…地域行事の選択と集中、低学年からの親子参加型のイベントの提供、コミュニティ・スクールの充実

・●2 学校が拠点

- 2 学校を中心としたコミュニティの場の確保

- ・丸なし…学校に学童・コミセン・児童センターを

・丸なし…ルールづくり

- ・丸なし…学校の施設管理方法の整備

- ・丸なし…学校・地域の目的の明確化

(iii) 地域が主体となった子供のチャレンジの場や放課後の受け皿づくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●7 地域の主体性や子供のチャレンジの受け皿となるマンパワー・人づくり

- 2 地域内・外の人材を繋ぐプラットフォーム・コーディネーター

- 1 地域に居る先生を見つける

- 1 地域サポート力の体制化・組織化

- ・丸なし…地域を組織化して放課後の受け皿をつくる、課外活動の推進体制、地域教育力の向上

(iv) 地域の中で一貫して学べる環境づくり

《参考とした意見》

◆第4回会議/グループワークでの意見

■具体的な取組 ・まとめワード《ゴシック体》 ・付箋ワード《明朝体》

・●3 一貫校・複合化

○6 コミセン・地域との学びの場となる複合化

○1 就学前から高校まで関わる

《関連意見》

◆第1回会議/小中一貫教育等の講話を受けての意見

■施設一体型小中一貫教育について

【○期待】

- ・施設一体型の小中一貫教育は理想形と思う。現時点では叶わないが、20年後、30年後を考えた際、必然的に集約化の方向に向かわざるを得ないのでは。

■学校統廃合・大規模化

【△懸念】

- ・小規模校は幼少期から先生や友達としっかり関われる。大規模校ではそれが出来なくなるのではないか。
- ・地域に小学校が無くなってしまうと、地域文化の継承や郷土愛の醸成が困難。既存の小学校は維持して頂きたい。

3. おわりに

本検討委員会において、廣田貢先生、江間史明先生のお二人から、講評の際に頂いた言葉を紹介いたします。

■「対話の風土」をとおして「志」が集まる学校や地域づくりを（第4回会議・講評）

『誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子どもたちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供達が自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿。』

学校や地域づくりをしていく際には「志」が大事です。「コミュニティ・スクール」や「地域コミュニティ」という言葉がありますが、「コミュニティ」には「支援」という意味もあれば、「同じ目的を持った集まり」という意味もあります。これからの長井市には「志」が集まる学校や地域をつくっていくことが必要です。そして、どんな子どもたちを育て、どんな学校・地域をつくっていききたいのか、ビジョンをみんなで共有し、具体的な行動に移していくことが大切です。

「志」が集まり、具体的な一歩を踏み出す際に必要となるのが、目標・ビジョンを共有し、行動していくための「対話の風土」をこの長井市につくることです。今ここにいる皆さんには、地道な対話の積み重ねが「対話の風土」に繋がることを意識していただきたいと思います。将来構想検討委員会の取りまとめと、この先の具体的な一歩に繋がるよう、お話をさせていただいたところです。

【長井市学校教育アドバイザー】

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長 廣田 貢 様より

■「雲を掴むような話」の中で「雲をどう描くか」（第2回会議・講評）

本検討委員会の冒頭、長井市教育委員会 土屋正人 教育長 からは、「この将来構想検討委員会は、雲を掴むような話をしてもらうことになる」とのお話がありました。この将来構想は白紙からスタートしているので、確かにそういう面はあるのですが、本検討委員会で問われているのは「雲をどう描くか」です。雲だから掴めないのではなく、その雲をどう描いていくのか、議論を進めていく取り組みであると思います。こういった取り組みは、自治体だけでなく企業でも行われており、まさに今、これから自分たちのミッションをどうしたらいいのか、どういうふうを考えていくのか、という議論がなされています。それは結局「雲をどう描いて形にしていくのか」という議論であると思います。こういう議論をしていかないと、新しい価値は生み出すことは出来ないだろうな、と思っております。この将来構想も、出来上がってしまえば、外から見ると「ああそういう事なのか」と分かりますが、作っている最中の当事者にしてみれば「見えない所を少しずつ見える化していく」という取り組みや議論であると思います。

【長井市小中学校将来構想検討委員会副委員長】

山形大学教職大学院 教授 江間 史明 様より

検討の経過と、提言書との対応は次のとおりです。

①「子供」の理想の姿

- ## 理想の実現に必要な力

体験・経験

- (i) 子供の得意なことを伸ばしてくれる地域
- (ii) 地域主体の課外授業が盛んな地域
- (iii) 顔なじみの交流と絆がある地域
- (iv) 子供一人ひとりを認め、受け皿となってくれる地域
- (v) 長井の文化・行事・遊びを通し、オープンで楽しい交流が出来る地域

具体的な取組

- (i) 地域の先生や外部の専門家による課外授業等への協力体制づくり
- (ii) 子供と大人が安心して絆を育めるコミュニティスペースづくり
- (iii) 地域が主体となった子供のチャレンジの場や放課後の受け皿づくり
- (iv) 地域の中で一貫して学べる環境づくり

取組等の集約

②取組の方向性に沿った学校施設整備